



大町町長  
鈴木雅博

光陰矢の如し。町政の舵取りを任せていただいた2期8年を振り返った想いです。

50年後の将来を見据えた大町町の発展に寄与すべく、日々、邁進してまいりました。

この間の令和3年には、平成28年度にスタートした「第7次大町町総合計画」の中間見直しを行い、残す5年の再スタートをきったところです。

これまで大町町は、財政的に恵まれたまちであると言われてきましたが、法人町民税(法人税割)の税率引き下げによる影響は大きく、町政運営は厳しいものとなっております。

それでも先人が知恵と努力で築いてこられた、この町の原動力である産業を衰退させることは許されません。まずは、町内の道路等のインフラ整備に積極的な投資をし、本町の拠点を構え、町の発展に寄与していただいた企業の皆様を支援すると同時に、さらなる企業誘致を進め、『活力ある産業づくり』に努めてまいります。

本町の人口については、今しばらく増加傾向にあると見込んでいます。これは、シティプロモーション事業をはじめとした、本町の移住・定住支援策や保育施設の充実、奨学金助成など、子育てしやすい環境整備を行った成果であると考えます。若い世代の皆様が安

心して子どもを産み育て、本町に住み続けていただけるよう、引き続き支援の充実に取り組んでまいります。

大町町の子どもは、大町町の『宝』であります。子どもたちの権利を保障した、子どもにやさしいまちづくりを構築するため、令和4年度から「子ども条例」の制定に向けた調査検討を進めます。

さて、新型コロナウイルス感染症は我々の生活に大きな影響を及ぼし、これまでの生活様式や慣習の見直しを余儀なくされることとなりました。ウイルスと共存するための暮らしの変化は、新たな生活への1歩、始まりであると考えます。この変化の時を好機と捉え、より豊かな暮らしの実現と大町町の発展のため、精一杯、施策に取り組む所存です。

大町町は、令和4年4月1日に町制施行60周年の節目を迎えます。

初代、社本鏡郎町長率いる町民の皆さんが、強い思いで自主自立の道を進められたように、我々も今、60年前の原点に立ち返り、先人から受け継いだ『郷土おおぐち』を、またその先の60年後のおおぐちに引き継げるよう、まちづくりの担い手である住民の皆様や様々な企業・団体の皆様方と力を合わせ、努力してまいります。

(令和4年度「施政方針」から抜粋・再編)



## 町の沿革

明治22(1889)年10月の町村制により、富成村、小口村、太田村の3か村ができました。明治28(1895)年に小口村の余野地区が柏森村(現扶桑町柏森)に合併されましたが、明治39(1906)年には、富成村、小口村、太田村の3か村と、柏森村の一部であった余野が合併し、現在の大口町の基礎である大口村が誕生しました。

昭和37(1962)年4月には、大口村から大口町になりました。

※ 産業では純農村だった町が、昭和30年代から始まった企業誘致策により、現在では、約680社の企業が立地し、多くの方が働くまでに発展しています。

※ 令和3年度 法人町民税均等割納税義務者数